

ばんけい

教育ほっとにゅーす
かわら版こみち
教育の小径

8月号

2012
AUGUST
No.46

今月のこぼ

習うより慣れよ

「習う」とは教えを受けること。物事や知識・技術は人から教えられるよりも、自分で実際に体験したり練習を重ねたりしたほうがよく身につく、効果的であるという意味です。

今月の記念日

献血の日(8月21日)

1964年(昭和39年)のこの日に、それまで行われていた売血制度に変わって、輸血用の血液を人々の献血によって確保することが閣議で決定されました。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

今月の
テーマ

夏休みをどう活用するか

- 子どもにとっての夏休みは、教師にとって、日ごろできないことに取り組み、9月からの教育活動に備えて充電する貴重な期間です。
- 通信や面談などによって、子どもたちや保護者とのかかわりを維持します。ご自分のためにも活用し、心と体のリフレッシュを図ります。

教師としての充電期間

新年度の教育活動がスタートして早いもので4か月が過ぎました。子どもたちだけでなく、教師にも心身共に疲労が溜まっているころです。子どもにとっては夏休み期間ですが、教師の勤務は続いています。プール指導や補習など学校での行事もあります。しかし、通常の教育活動や授業はありませんから、ほっとしていることでしょう。

この期間には、日ごろ時間を十分かけられないことにじっくり取り組むことができます。例えば、教材の開発や研究を進めたり、教育関係の図書を読んだり、さらには教育センターや民間の団体などが開催する研究会や講演会に参加したりすることが考えられます。視野を広げるために、教育関係でない図書を読んだり講演会に参加したりするのもよいでしょう。夏期休業日は、教師として必要となる知識や新しい情報を収集し、教師としての資質能力を深める貴重な期間です。

いろいろなことに満遍なく取り組むこともできますが、「今年の夏にはこのことを中心に」と、一つか二つの重点目標を決めて取り組んではどうでしょうか。教師

にとって、夏期休業日は貴重な充電期間です。充実した夏期休業日を過ごすことによって、9月からの教育活動に自信と期待をもって備えることができます。

子どもたちへの通信

夏休みには、子どもの登校日が限られています。プール指導や補習などの日には全ての子どもが来ません。そのため、どうしても子どもたちとのつながりが疎遠になりがちです。

夏休み中に1回ぐらい、学級通信や学年だよりを発行してはどうでしょうか。方法は、郵送、メールなどが考えられます。一人一人に手紙を書くことや、暑中(または残暑)お見舞いの葉書を出す方法もあります。

学級通信などでは、夏休みが終わるころに「夏休みを楽しく過ごしていますか。9月からまた元気で登校して来ることを待っています。」と、教師の期待を伝えるとよいでしょう。

日ごろから気になっている子どもには、家庭訪問をしたり、個別に面談したりすることも大切です。時間をかけてじっくり話し合うことができます。

こうした取り組みを学級や学年として

実施するときには、事前に校長や教頭・副校長に相談したり報告したりしておく必要があります。

ご自分のためにも活用を

先生方にも夏期休暇や有給休暇が保障されています。日ごろは、授業などがあって休暇を取りづらいますが、夏期休業日中は比較的取りやすい状況にあります。休暇をご自分のために有効に活用し、心と体のリフレッシュを図りたいものです。このことが9月からの教育活動の原動力になります。

とは言っても、夏期休業日にも学校の行事や教育委員会の研修などがいろいろと入り込んでいて、休暇が取りづらいという声を聞きます。ある一定の期間は学校の行事を入れない。長期の休暇を交代で取れるようにするなどの工夫をするとよいでしょう。これは校長が率先して提案する課題です。

日ごろは、夜遅くまで仕事をしたり休日に勤務したりして、家族に迷惑をかけていることもあります。夏期休業日中の休暇をご自分のために生かすとともに、日ごろから支えてもらっている家族のためにも活用したいものです。



教えて北先生

いじめられがちな子ども

Q. 学級の中に、友だちからかわれたり、いじめられがちな子どもがいます。気になっているのですが、どのように対処したらよいのかわかりません。担任としてどのように指導したらよいのでしょうか。

A. 「いじめ」の問題は、人権にかかわる重要な課題です。ややもすると「いじめられる子どもにも問題がある」といった、いじめられる側の問題として受けとめることがあります。これは誤りです。いじめという事態の根本的な背景や原因は、いじめの側、いじめを見過している側にあるという認識がまず大切です。

いじめられがちな子どもや、実際にいじめられている子どもを見出したときには、その子どもを取り巻く人間関係を把握します。そして、いじめられがちな子どもの心情を受容的、共感的に受けとめます。そのうえで、いじめにかかわっている子ども（たち）に対して個別に対応します。いじめにかかわっている子どもが見えにくい場合もあります。周囲の子どもたちの声も聞きながら、状況を慎重に観察し把握します。

初めは殻を開くことをせず、本音を引き出すことが困難な場合もあります。校内の先生方や専門機関からのアドバイスを求めることも大切です。もちろん保護者の協力は欠かせません。

深刻な事態にしないためには、いじめはどこでもいつでも起こりうるという認識をもって、いじめを早期に発見する教師の鋭敏な観察力や洞察力、早期の組織的な対応が鉄則です。

教育の動向

学習指導要領実施状況調査

小学校の学習指導要領に基づく各教科の目標や内容に照らした児童の学習の実現状況について調査研究する事業が、国立教育政策研究所によって実施されます。次期の学習指導要領の改訂に資することを目的としています。

対象の教科は、生活科を除く、国語科、社会科、算数科、理科、音楽科、図画工作科、家庭科、体育科です。本実施は平成25年2月に予定されていますが、体育科は平成25年度に実施されます。対象の学年は教科によって異なります。例えば、国語科は4、6年、社会

科は4～6年です。

調査の内容(問題)は、今回の改訂の基本方針に掲げられた事項、今回の改訂で新設された内容、学年や学校を越えて移行した事項、従来から課題として指摘されてきた事項や以前の調査で通過率の低い事項などから作成・構成されます。調査を通して、これらの実現状況や課題などを把握するとしています。

調査は抽出校で実施されます。結果は平成25年度内に分析、公表される予定です。次期学習指導要領の改訂に向けて、基礎的資料の収集作業がスタートしたと言えます。

中学校については、平成26年1～2月に実施される予定です。



コラム 北先生の授業力向上術

指名計画

授業は多くの場合、教材を介して、教師と子どもたちとの間でのコミュニケーションを通して展開されます。教師は子どもたちに個別に発言を促します。これを指名と言います。指名は授業の質を左右する行為です。指名によって、子どもの中に意見の対立が生まれ、授業が盛り上がる場合があります。指名の仕方を誤ると、授業がとんでもない方向に行ってしまう、指導の目標が実現されないことがあります。

子どもが子どもを指名する相互指名も行われています。指名を子どもに委ねるのも一つの方法ですが、その時間の目標(ねらい)により効果的にたどり着くためには、教師が子どもを意図的に指名し、発言を交通整理しながら目標に導いていくことが大切です。

そのために求められるのが、教師の「指名計画」です。あまり耳にしない言葉かもしれませんが、これには前時の学習状況から予め計画する場合と、授業の場で瞬時に計画する場合があります。いずれも確かな子ども理解に基づいて計画されるものです。

特に重視したいのは後者の瞬時の指名計画です。子どもが発言する際に、ハンドサインで発言の内容や傾向を合図させる方法があります。これによって、教師は指名計画が立てやすくなります。教師が指名するという行為は、授業の醍醐味でもあります。

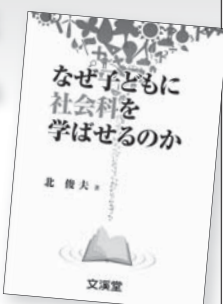
指名計画に基づいて意図的に子どもを指名し、子どもの発言を組織しながら質の高い授業を展開することは、教師に求められる重要な授業力と言えます。授業における指名力には、教師の授業力が集約されます。

INFORMATION

なぜ子どもに社会科を学ばせるのか

◎著者 北 俊夫
◎定価 998円
(本体950円+税)
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 104ページ

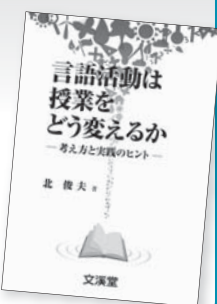


言語活動は授業をどう変えるか

—考え方と実践のヒント—

◎著者 北 俊夫
◎定価 998円
(本体950円+税)
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 112ページ



「教育の小径」の全てのバックナンバーをインターネットでお読みいただけます!

ダウンロードして印刷も可能です。
お知り合いの先生にもぜひお勧めください。
<http://www.bunkei.co.jp/2012/monthly.html>
または「ぶんけい 教育の小径」で検索。

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2012年8月1日